

連句と落語にみる普遍性

江戸庶民文化の多様性に遊ぶ

日本の伝統話芸である落語。

「落とし噺」とも呼ばれる落語は、同じ演目であっても口演者によって筋や演出が微妙に異なります。

一方の連句も、私たちにとって落語ほどなじみはありませんが、

何かとマニユアルがあふれる現代において、ぶっつけ本番という即興性は大きな魅力といえそうです。

どちらにも共通しているのは、人間性の本質や世情の機微への深い理解が不可欠ということ。

今回は、江戸文学を専門とする二村文人教授に、連句や落語の楽しみ方を伝授していただきます。



ふたむらふみと 二村文人

1952年生まれ 東京都出身
1975年 信州大学人文学部文学科卒業
1983年 東京都立大学大学院人文科学研究科
国文学専攻博士課程単位取得満期退学
富山大学教養部助教授
1991年 同大学人文学部助教授を経て
1993年 同教授。専門は日本近世文学
1997年 日本文学協会会員、富山県連句協会会長

黒髪庵(井波町)は、芭蕉塚の第一号

相本 私は毎年、井波町の瑞泉寺で行われる太子伝会に呼ばれていますが、そのすぐ近くにある黒髪庵が芭蕉ゆかりの地といわれるのはなぜですか？

二村 それは地元でも知らない人が多いと思います。ご存知のように、「おくのほそ道」の旅で芭蕉は越中をわずかに三日で通過しています。そのことを後で知った浪化という人が大変残念がって、五年後の元禄七(一六九四)年閏五月に京都嵯峨野の落柿舎で芭蕉との対面を果たし、入門を許されます。芭蕉はその年の十月に亡くなってしまいうので、これが浪化にとっては芭蕉との生涯唯一の出会いになりました。

芭蕉の死後、浪化は天津の義仲寺にある墓を訪ねて小石を三つ持ち帰り、芭蕉が若いときに剃髪した髪を遺族から譲り受けて、井波の浄蓮社境内に塚を建てて納めたのです。それが文化七(一一八〇)年に黒髪庵として建て替えられ、全国を行脚する俳諧師たちの交流の場になりました。翁塚や芭蕉塚は全国にたくさんありますが、黒髪庵はその第一号だといわれています。

相本 なるほど。ところで、浪化とはどういう人物だったのですか？

二村 井波の瑞泉寺第十一代住職ですが、京都の東本願寺の縁続きで二十歳前後まで主に京都に住んでいたのです。お公家さんみたいな人だったようです。

相本 当時、井波にいた浪化や、小杉の俳人だった十丈が芭蕉の最先端の句に

※黒髪庵……茅葺きの芭蕉堂や浪化の句碑もあり、俳句の会や茶会が催されている。

触れていたということ。これは、江戸中期には人の交流や情報交換がかなり盛んだったということですね。

二村 芭蕉の十人の有力なお弟子さんの一人である岐阜の各務支考が北陸を行脚していますし、そのお弟子さんも北陸を訪れ、主だった街を回って連句の普及に努めています。

相本 連句が生まれた背景とは？

二村 もともと和歌が公式なもので、その息抜きとして生まれたのが連歌です。鎌倉・室町時代に盛んになり、和歌と肩を並べるような勢力を持つようになるとルールも厳しくなったため、今度は連歌の息抜きとして俳諧の連歌が生まれます。それを明治以降、連句と呼ぶようになり、形は連歌と同じですが、ルールもゆるやかで、和歌から生まれた連歌の内容が雅であるのに対して、連句は比較的俗っぽいテーマを取り上げています。

連句の命は、ひたすら変化していく面白さにある

相本 そもそも、先生が連句を始められたのは？

二村 信州大学で、西鶴の研究者として知られる東明雅先生に出会ったのがきっかけです。正岡子規が、「連句は文学ではない」といったのがきっかけかどうか、明治以降、連句はほとんどすたれてしまします、それが昭和四〇年代の半ばから復活して、今はまた盛んになってき



ました。
相本 県内にも連句仲間がいらっやるとは、いいですね。

二村 数は多くありませんが、富山県連句協会のほか、井波町には「いなみ連句の会」があります。現在も富山市と井波町では月例の実作会が行われており、毎回十数名が参加しています。

相本 連句のルールを簡単に教えてください。

二村 一人が「五七五」(長句)を詠むと、別の人が「七七」(短句)を付けて一つの情景を創ります。そこへ次の人が「五七五」を付けると、そこでまた別の新しい世界が生まれます。連句の基本は三句目で転じることにあり、それを繰り返していきます。意味の上でつながっているのは隣同士の二句だけで、一貫したストーリーやテーマはありません。遠い先祖が和歌ですから、春夏秋冬もまんべんなく詠みます。

相本 すると、百句ぐらい続けて詠むこともありますか？

二村 もとは百句詠む(百韻)のが正式な形ですが、そうすると一日がかりですから……(笑)。芭蕉の時代には歌仙形式といって、三十六句の形が積極的に採用されるようになります。担い手がお公家さんから庶民にまで広がって、悠長



あいもとよしひこ 相本芳彦

1956年生まれ 高岡市出身
1979年 慶應義塾大学を卒業後
北日本放送(株)に入社
2000年 報道制作局アナウンス部長に就任

なことはしていられたらなくなったのでしよう。ストーリーがないといっても山場へもっていきような流れはありますし、初心者は完璧なスタイルを目指すより発想を大切にしたい方がよいと思います。

相本 ズバリ、連句の魅力とは？

二村 自分がある意図を込めて句を詠んでも、次に思ってもよらない方向へ持っていくこともあります。それを進んで楽しむ気持ちにならないと、連句は面白くありません。連句仲間（連衆）、もっと広く言えば人間への信頼感をベースにした意外性でしようか。思い込みの強い人には向かないかもしれませんね。



職業落語家が登場するのは元禄期

相本 先生が江戸文学を研究しようと思われたきっかけは？

二村 理由はごく単純で、子どもの頃から落語が好きだったからです（笑）。

相本 というところ、ご出身は？

二村 生まれは東京です。父が転勤族

あいで話をするという基本的なスタイルがあります。新しいスタイルが生まれても、それが型として長く受け継がれていくかどうかかが気がかりです。



相本 まるで瞬間芸のように消えていってしまっているのではないかと……

二村 そこがプロとアマチュアの境目ではないでしょうか。

アマチュアは同じ事を何度もするのは恥かしいけれど、一つの芸、一つの形として完成されていけば、何回繰り返しても面白い。

相本 私はテレビ世代ですから、落語以外の林家三平さんとか、円歌師匠の「山のあな、あな……」とか、テレビで見たり、聞いたりした面白さにインパクトを感じました。同時代に活躍した四代目柳亭痴楽さんは富山市呉羽の出身ですが、あの方はお顔にもインパクトがありましたね（笑）。

だったので全国を転々としましたが。
相本 すると、寄席にはよくいかれますか？
二村 かつては……（笑）。昭和四〇年代半ばから五〇年代は「落語オタク」のように寄席に入り浸ったものです。新宿の末広亭が私のホームグラウンドで、

もいいけど、春風亭柳橋みたいなおじいさんが出てきて、自分の知らない遠い昔のことを話してくれる方が奥行きがある。私は好きでした。今は自分と同年代か、もっと若い噺家さんが多くなってしまいましたけど（笑）。

相本 風俗や言葉もすっかり変わって



しまつて、「今は、オチや、下げ」がわからなくなっているからやりにくい」と嘆く若手の噺家さんいます。

二村 江戸言葉にこだわったのが、この間亡くなった桂文治さんです。「格好いい」というのは上方の言葉で、

江戸では「様子がいい」と言うとか、「風呂」というのは関西の言葉で、江戸では「湯（屋）」だとか。「面白ければいい」という人もいますが、不用意な一言で現実に引き戻されてしまうと興ざめです。落語家さんは言葉で商売をしている以上、言葉に対してもデリケートであって欲しいですね。

相本 確かに、ディテールがしっかり

遊亭良楽さんは富大工学部の出身ですね。

二村 桂米朝さんの長男は小米朝さんですが、その下の双子の弟さんの一人も富大文学部の出身です。

相本 本当ですか！ それは知りませんでした。

二村 落語の小道具は扇子と手ぬぐいで、あとは手と目の動きがすべてです。さりげない仕草がサマになるには、それなりの経験と時間が必要です。昔の噺家さんは膝に手を置いてしゃべったものですが、近頃は全体的に身振りが大きく、特に「まくら」の部分でオーバークションが目立つような気がします。

相本 それは、やはり外国の影響でしょうか（笑）。

二村 さつきから拝見していると、相本さんには余計な身振りが全然ありません。さすがだなあと感じているんですけど。

相本 いやあ、番組の放送中は結構動くんですけど（笑）。きょうは黒髪庵にまつわる積年の疑問も解けてすっきりしましたし、大変勉強になりました。



していないと通用しませんね。落語が始まったのは元禄時代と考えていいのですか？

二村 そうですね。ほとんど時を同じくして、京都に露の五郎兵衛、大坂に米沢彦八、江戸に鹿野武左衛門という職業的な落語家が出てきます。それ以前にも話上手な人はたくさんいたはずですが、お金を取って不特定多数の客に聞かせたという点では、この辺が最初だと思います。元禄時代といえ、小説の分野で活躍した西鶴、俳諧の芭蕉、浄瑠璃の近松門左衛門がいますが、三人に共通しているのは人間に対する関心の強さです。

相本 ちなみに、江戸前のしつかりした落語が出てくるのは？

二村 江戸中期に江戸小咄の作者が出てきて、その後、今の落語家のほぼ直接の祖先になる烏亭馬場という人が登場します。料理屋の二階などで落とし噺をやったのが現在の寄席に発展し、そのなから初代の三遊亭円生のように現代につながる名前が出てきます。

繰り返しの耐えられるのがプロの技

相本 ちょっと宣伝になりますが、土曜の夜、日本テレビ系列で「エンタの神様」という番組を放映しています。落語は出てきませんが、スタンダップ・コメディアン的な人たちが、ありとあらゆる手を使って笑わせます。言葉を使った笑いの要素は、これからも広がっていくでしょうか。

二村 たとえば、漫才には二人がかけ

対談を終えて……

「井波町の黒髪庵がなぜ、芭蕉ゆかりの地なのか……」先日井波町でお話をさせていただいた折に、町民の皆さんに聞いてみたところ、「庵」の存在を知っている人は一〇〇人中八〇人以上もいらつしやつたのに、「黒髪」の由来を知る人はわずか三〜四人ばかりでした。もつとも、この話は富山大学の二村先生から聞いたと言ったら、三〇人ほどが先生のことをご存知でした。「ああ、よく連句にこられるわ」って、二村先生は芭蕉翁より有名？

（相本芳彦）

私が寄席に通っていた昭和四十年代の半ばから五十年代にかけて、ホーム・グラウンドは新宿末広亭でした。ほぼ同じ頃に、映画ファンの相本さんは、すぐ近くの映画館でアルバイトをしていたそうです。今でも、新宿の街を歩くと、青春の思いが蘇ってきて、胸の熱くなることがあります。いつか相本さんと新宿で御一緒して、映画や落語の話がしたくなりました。

（二村文人）



徳橋 曜 (とくはし よう)
Tokuhashi Yo

教育学部 生涯教育課程 人間環境専攻
1960年 12月生まれ
1983年 東京都立大学文学部卒業
1992年 東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学
富山大学教育学部講師に就任
1995年 同助教授 現在に至る
専門分野：歴史学 (イタリア中世史)

「社会史」は、大所高所からでは解らない歴史の側面を明らかにする。それは過去の日常を調べる次元にとどまるものではない。筆者の研究テーマの一つは「コネ」。

今も昔もイタリアで大事なものは人脈だが、その「コネ社会」の機能を史料から明らかにしようと努めている。法的・行政的機構を見ていただけでは解らない仕組みが、そこに見えてくる。

社会のあり方に関する当時の人々の考え方やメンタリティもわかれば、人間関係の機能とは何なのか、社会的結合というものを(現代のものも含めて)どのように捉えるべきなのか、いろいろと考えさせられる。社会の潤滑油としての側面も、法規制や政治機構を有名無実化する負の側面も含めて、「コネ」の仕組みを追究できればと思っている。

ただし、中世といえども都市社会は流動的で、多くのよそ者がいる。彼らの「コネ」、定着先の社会との関係、帰属意識は流動的である。よそ者はいつかよそ者でなくなることもあるが、定着先の都市に溶け込むとは限らない。その社会も、必ずしもよそ者を快く受け入れるわけではない。

よそ者としてイタリア史を研究していると、イタリアに愛着を感じつつも、外国人の立場・不利を痛感することがある。だからなおさら、中世都市社会にお

頭と舌に おいしい イタリア史



15世紀後半に作成されたフィレンツェ景観図(部分)。画面中央が大聖堂。

外だったのである。その傾向が変わってきたのは、この三十年ほどのことだ。

「役に立つ」ばかりが学問ではない

無論、「イタリア史を研究する」という役割に立つ」という即効的「有用性」はない。かつて歴史学が「有用」たらんとしたときには、「皇国史観」というものを生んでしまった。

現在や未来の生活・科学技術に即、役に立つかどうか、学問の意義や価値を決めるわけではない。最近、この辺りを誤解する風潮があるので、あえて断っておく。

イタリア史って何だ？

イタリアという国民国家が生まれたのは一八六一年だ。それ以前、「イタリア」という地域的呼称はあっても、都市国家や領域国家が分立していた。今でも地方色は強いが、中世においてはなおさら、「イタリア」をまとめて論じることなどできない。筆者の専門領域もより厳密には「フィ

究している。

「コネ社会」のシステム

「社会史」は、大所高所からでは解らない歴史の側面を明らかにする。それは過去の日常を調べる次元にとどまるものではない。筆者の研究テーマの一つは「コネ」。

今も昔もイタリアで大事なものは人脈だが、その「コネ社会」の機能を史料から明らかにしようと努めている。法的・行政的機構を見ていただけでは解らない仕組みが、そこに見えてくる。

社会のあり方に関する当時の人々の考え方やメンタリティもわかれば、人間関係の機能とは何なのか、社会的結合というものを(現代のものも含めて)どのように捉えるべきなのか、いろいろと考えさせられる。社会の潤滑油としての側面も、法規制や政治機構を有名無実化する負の側面も含めて、「コネ」の仕組みを追究できればと思っている。

ただし、中世といえども都市社会は流動的で、多くのよそ者がいる。彼らの「コネ」、定着先の社会との関係、帰属意識は流動的である。よそ者はいつかよそ者でなくなることもあるが、定着先の都市に溶け込むとは限らない。その社会も、必ずしもよそ者を快く受け入れるわけではない。

よそ者としてイタリア史を研究していると、イタリアに愛着を感じつつも、外国人の立場・不利を痛感することがある。だからなおさら、中世都市社会にお

ける外国人・よそ者の存在が気になって

イタリア史を舌で考える

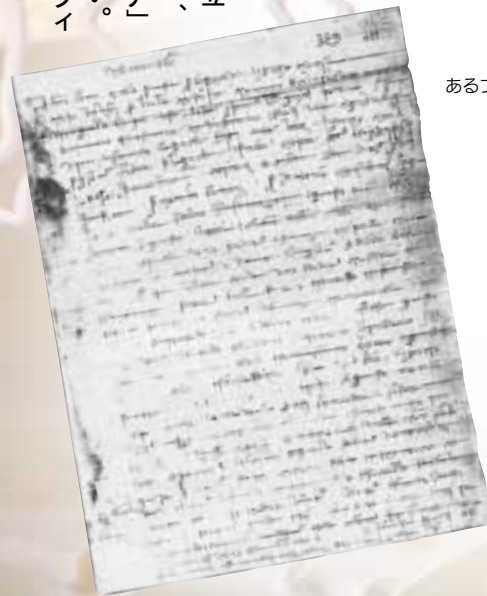
先に「社会史」は日常を調べるだけではないと見栄を切ったが、過去の「日常茶飯」が興味深いのは確かだ。そこには当時の人々の生活が垣間見える。そこで近年は、食文化から見た中世史を構想している。食やワインの背景にある文化や経済を捉えなおすことで、中世史を再考



20世紀後半のフィレンツェ中心部の俯瞰。画面中央やや奥に大聖堂、その右手前に市庁舎が見える。

レンツエ史」である。

ならば、中世イタリア史とは地域史の寄せ集めなのか。ある意味ではそうだが当時の人間も、イタリアという地域の多様性と文化的共通性を同時に認識していた。イタリア諸国家は一致団結することはなかったが、絶妙のバランス感覚で共生していたのである。その歴史を思うとき、日本人が外からイタリアを研究するなら郷土史に埋没するのではなく、より広い視野を持ちながら、都市と地域・地域と地域の連関を考えていくことが必要だ。そういう観点で、筆者は研



あるフィレンツェ人が友人にあてて書いた手紙(1448年)

できないかという目論見だ。一種の異文化理解の試みとも言える。イタリアの食文化はこんなもの、というステレオタイプのイメージも覆したい。ワイン一つをとっても、銘柄を示したワインの送り状や、ワインの味を評した友人間の手紙から、銘酒というべきものが中世にすでに成立していたこと、料理との相性よりもまず高級品として、甘口の白ワインが珍重されたことなどが判る。ある意味で今と変わらぬ日々の苦労とささやかな楽しみが見えるのだ。今のところ、最もはまりつつあるのがこのテーマ

である。

なお、ワインや食文化は公開講座で取り上げている。関心があれば、お気軽に参加いただきたい。

「今を精一杯生きる」の大切さ

原付バイクで高岡から富山へ通う

私は車などの機械関係に興味があったのですが、高校の進路指導のアドバイスで金属工学科を受験しました。しかし、入学後どうしても夢を捨てられず転科を願ったところ、幸いにも機械工学科に移ることができました。

当時高岡にあった工学部校舎は老朽化し、設備面も充実していたとはいえませんでした。三上房雄先生を中心としたアットホームな研究室で、のびのびと学生生活を送りました。大学へ入ってから柔道を始めたのですが、おかげで体力と度胸がつき、少々のことには動じなくなりましたね(笑)。

富山市五福のキャンパスにあった武道場まで、高岡から原付バイクで通ったのも懐かしい思い出です。両親の強い希望もあって就職は県内。当時の(株)トヤマキカイは、ユニークな事業をいくつも手がけており、おもしろいことがやれそうだと思って入社しました。

英会話で苦勞したアメリカ生活
入社してすぐ現場を体験し、機械



柔道に打ち込んだ大学時代

設計、油圧設計の仕事を経て昭和五年から三年間、アメリカに赴任しました。

かねがね海外に勇躍したいと思っていたのですが、さすがに英語には苦勞しました。英単語は相当覚えていても、コミュニケーションがうまくできなかったのです。今は日常会話や商談にも不自由しませんが、英会話上達までの苦勞話はキリがないですね。ただ、帰国後、レーザ事業部を立ち上げられたのも、自由な発想で考える習慣が身についたからですし、アメリカでの経験が企業経営にもずいぶん役立っていると思います。

振り返ると、せっかく工学部を出ながら、多少なりとも専門知識を生かしたのは入社当初の数年間だけ。あとは、自ら学び取った知識と経験がすべてで、一生懸命仕事をした結果が今日につながっていると思います。

失敗の経験が人を育てる
今の若い人は、上司が何か提案しても、自発的に「私がやりたい!」と手を挙げる人が少ないですね。汗にまみれ、必要とあらば汚い作業でも進んで取り組む覚悟があるかどうか

か。若い時こそ損得を考え、ひたすら率先垂範する姿勢が大切だと思います。

実は学生時代に、勝てるはずの柔道の試合でちょっと気を抜いたため、一瞬にして負けたことがあるんです。以来、与えられた場で与えられた仕事に最大限の努力をすることをモットーにしています。

経営者は大きなことに目を奪われがちですが、小さな事柄を一つ一つクリアしていくことが、結果として大きな成果になります。

世界を舞台に仕事をしていくには体力がないと務まりません。ですから、新入社員の採用にあたってはスポーツに打ち込んだ経験が評価したいですね。もちろん頭脳も大切ですが(笑)。

特に直感やひらめきは、いろいろな人生経験を通して培われます。若くて頭の柔軟なうちに多くの経験を積むことが、あとの人生で大きく生きてきます。若い人の活躍の場を広げ、どんどんチャンスを与えていきたいですね。

企業のトップとして世界中を飛び回る堀井社長



堀井 弘之氏 (ほりい ひろゆき)

- 1947年 富山県小杉町に生まれる。
- 1970年 富山大学工学部機械工学科を卒業し、(株)トヤマキカイに入社。
- 1984年 (株)トヤマキカイと日平産業(株)が合併し、(株)日平トヤマが誕生。
- 2002年 (株)日平トヤマ代表取締役専務に就任。
- 2003年 同社代表取締役社長に就任し、現在に至る。

※問い合わせ先：〒939-1595 福野町100番地 (株)日平トヤマ 富山工場管理部 tel.0763-22-2161

総合情報基盤センター

- | | |
|---|--|
| センター長 (併任 工学部教授)
村井 忠邦 (むらい たくに) | 業務部門
技術専門職員 豊本 勉篤 (とよもと つとむ) |
| 副センター長 (併任 教育学部教授)
大森 克史 (おおもり かつし) | 技術専門職員 山田 純一 (やまだ じゅんいち) |
| 情報通信技術研究開発部門
助教授 布村 紀男 (ぬむら のりお) | 技術職員 柴田 奈々 (しばた ななえ) |
| 講師 奥村 弘 (おくむら ひろし) | 技術補佐員 高島 真智子 (たかしま まちこ) |
| 情報メディア教育研究開発部門
教授 木原 寛 (きはら ひろし) | 事務補佐員 若干名 |
| 助手 沖野 浩二 (おきの こうじ) | テクニカル・アシスタント |
| 学術情報サービス研究開発部門
教授 高井 正三 (たかい しょうぞう) | |
| 講師 上木 佐季 (うえき さきこ) | |

総合情報基盤センター

総合情報基盤センターとは

平成一五(二〇〇三)年四月一日、総合情報処理センターを発展的に改組し、総合情報基盤センター(ITCC)が設置されました。本センターには、教員六名による三研究開発部門と、技術職員三名、テクニカル・アシスタント等一五名で構成する業務部門を設けており、本学における情報通信、情報処理及び情報活用のためのシステムを円滑かつ効率的に運用管理するとともに、これまで以上に大学の教育研究活動を支援し、業務に関連する研究開発を行い、大学全体としての「情報力」を高める役割を担います。

学術情報基盤の整備とその最適運用

限りある情報システム資源を効率的に運用することで、教育研究の諸活動の能率向上をはかります。センターの使命は、コンピュータインテグとネットワークインテグ・システムの使用率向上と使用技術の高度化を進め、情報セキュリティ管理の強化、戦略的なキャンパス情報システムの開発運用、学術情報データベースの開発提供、e-コンテンツの充実、高水準の情報技術者の育成など、学術情報基盤を整備し最適運用することにあります。

高度な情報技術による研究支援

本センターには、情報通信技術、情報メディア教育及び学術情報サービスの三研究開発部門が設置され、高水準の情報技術による研究支援機能が強化されました。

各学部などの教員からの情報技術支援要求に応え、本学の特色ある研究の情報化を支援していきます。このため、各教員との共同プロジェクト形式での研究も視野に入れていきます。さらに、本学固有のデータベースの蓄積、提供サービスを附属図書館や各教員と協力して推進します。

教育システムの情報化支援

eLearningシステムの活用を中心としたオンライン・クラスの普及を支援し、教育システムの情報化を推進します。マルチメディア情報技術、情報メディア活用技術などの教育研修を実施し、教材コンテンツの開発を支援しながら、各教員の授業内容をe-Learningシステムに登録し、教員の授業方法の改善と円滑な授業実施、学生の自習、遠隔学習、生涯学習等を支援します。

地域社会の発展のための情報化支援

本学が、地域の産業と文化の発展に貢献するとともに、地域社会を牽引する人材を育成していくため、本センターでは、情報通信技術、情報セキュリティ管理技術、情報アプリケーション・システム開発技術等を

情報アメニティの大学を目指して

バーチャル・クラス、インターネット大学や大学院などの実現、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の開発、情報メディア活用能力の習得など、技術教育を支援するシステムの導入を通して、学生と職員がこれらの情報アメニティを謳歌できることが本センターの念願です。本学は県内三大学の再編統合を経て、高度に情報化された大学へと生まれ変わりますが、本センターはそれまで、そしてそれ以後もますます重要な教育研究支援施設として、総合大学の情報基盤の維持、改善に努力していきます。

最新鋭かつ最高の信頼性技術で最大限のサービスとサポートを約束

私たちがセンター職員一同は、大学内外、県内外、国内外のすべての人々に対し、最新鋭かつ最高の信頼性をもつ情報通信技術を通じて、最大限のサービスとサポートを約束します。ご期待下さい。



『バグダッドのモモ』

著者：山本けんぞう
アンドリュース・プレス 2003年刊 定価：本体1300円（税別）

人の子どもの目で見ると、戦争は、報道されるニュースとは違った風景を見せてくれる。

(加藤重広)

ゾウは好きなものがあると、近づきすぎるあまり、踏みつぶしてしまうという。「大切だ」と思うそばから、大切なものを失うとしたら、人はどうやって生きていけばいいのだろう。何があっても強く生きると心に決めて、涙を流さずに歯を食いしばるしかない。それが、モモという少女の姿だ。

爆撃で息子を失ってからお父さんは毎日壁ばかり見ていて何もしない。お母さんは病に倒れ、幼子を失った姉は自分の兄弟もわからないほどになってしまった。ことばにならないほどの悲しみを感じて越えるには、何も感じないようにならない。戦争の悲惨さの真の姿がそこにはある。しかし、モモの悲しみは終わらない。病院の母のところに行くとき空っぽのベッドに遺品の写真だけが残されている。父は敵軍に捕まり、弟の命の灯もいまや消えようとしている。

読み終えて「救われないなあ」と思う。しかし、それが戦争だろう。愛する肉親を失って救われないというのが現実だろう。救われない話だが、前向きなモモの生き方を猫のものが語るというスタイルが、つらい現実をオブラートに包んでいる。「市民の、人の子どもの目で見ると、戦争は、報道されるニュースとは違った風景を見せてくれる。」

(加藤重広)



『ナラティブ・ベイスト・メディスンの実践』

著者：斎藤清二（富山大学保健管理センター教授）・岸本寛史
金剛出版 2003年刊 定価：本体4200円（税別）

現代の医学、医療は今大きく変わろうとしています。カナダ、アメリカ、英国から急速に世界を席巻したエビデンス・ベイスト・メディスン（EBM：根拠に基づく医療）は、臨床疫学という科学的方法論を武器に、医療を一変させました。

しかし、EBMが容赦ない形で実行される時、そこにまた失われるものがあると考えた英国の一般医（日本でいうかかりつけ医）が中心となって提唱されたのが、物語りと対話に基づく医療：ナラティブ・ベイスト・メディスン（NBM）です。ナラティブ・ベイスト・メディスンは、患者さんが生き、体験し、語ることは、物語を尊重し、医療者と患者さんの関係性・対話を大切にします。それだけでなく、これまであまり交流をもつて来なかった、医学と人間科学（文化人類学、社会学、心理学、倫理学、哲学、言語学、情報工学など）との幅広い交流をその特徴としています。幸運にも一九九八年に英国で初めて出版されたナラティブ・ベイスト・メディスンのモノグラフを二〇〇一年に翻訳し本邦に紹介することができました。さらに外国からの借り物ではない、本邦での実践体験をまとめたのが、本書「ナラティブ・ベイスト・メディスンの実践」です。

幅広い分野の方に読んでいただきたいと思っています。

富山の未来

(斎藤清二)



河野先生（中央）と3年次ゼミ生

経済学部 経営学科 応用経営講座

流通論研究室

Distributive Theory Seminar

なぜかフランスの流通は日本と似ている

G7の中で、中小の店舗が八割、近代的なスーパーやハイパー・マーケットの数も同じくらいで、流通構造が似ており、今も残っているのは日本とフランスだ。大型店舗はカルフルという大手のスーパーが独占し、そのシェアは世界第二位で、アメリカの他、イギリス、スペイン、日本など、二〇か国に進出しているという。

「商品流通をいかに有効かつ効率的にし、人の役に立つようにするかが重要である。」という哲学を持つ河野先生は、フランスの流通が専門だ。比較流通論は経済の発展レベルが同じような国どうしでは、流通形態の違いを経済発展論から説明できないので、商慣習、文化、自然、社会慣習、法整備など、どの要素で違いを説明できるかを解明するそうだ。

ゼミナールでは、流通世界のシェア第一位の米国ウォルマートを対象に、「ウォルマート」(ポブ・オルテガ著、日経BP社)を教材に、毎週学生が調べてきたことを、何らかの形で全員に発表させるとのこと。なぜ、ウォルマートがこのように繁栄して、あのトヨタより収益率が高いのか、流通論の基本である4P (Price=価格設定、Place=立地、Product=製品、Promotion=販売促進) から、その特徴、問題点、解決策を分析し、マーケティング (Marketing) の実践を議論する。

三月現在で、ゼミは四年生七人、三年生六人の一三人で、うち女子学生は四年二人、三年生四人で、昨年はコンサルティング会社に就職した学生もいるとのこと。ガッツがあり、積極的に行動できる学生を待っているとのこと。

(高井正三)

作業工程で生じる現象の解明に挑む

新しくなった理学部棟に初めて足を踏み入れた。中も明るく近代的で、きれいになっていくなあという印象を持ちながら、四階にある金坂績(いさお)先生の研究室におじゃました。

金坂先生の研究室は、反応物性化学講座と合成有機化学講座という化学科の二つの講座のうち前者に属している。現在、学部四年生が三名と大学院生が三名在籍しており、卒業生の進路は、教員他には、コンピュータ関係や製薬関係が多いという。

先生のご専門は、振動分光学である。分光学は、光を波長ごとに分解し、その強弱のある光の帯(スペクトル)を解析する学問で、歴史もあり、高校までの化学ではあまりなじみがないかもしれないが、メジャーな領域だという。金坂研究室では、光を使って分子の構造を分析したり、分子の持っている性質との関係を明らかにする研究を行っている。

高校の同級生には幾人か化学好きがいた。面白くて面白くてたまらないというのだ。「分子や原子を分析の対象にしているわけだから、もともと化学にフィットする領域なんですよ」と先生はおっしゃる。装置を使って観察すると、電子だけでなく原子核も運動していることがわかるのだそうだ。

物質を構成する基本的な単位である原子の構造や動きがとらえられるというのだから、知的な刺激は大きい。研究の醍醐味がここにあるという印象を持った。

金坂先生のお話を伺い、遅ればせながら化学ほど面白いものはないという友人の気持ちがよくわかるようになった。

(加藤重広)



金坂先生（中央）と院生、4年生たち

理学部 化学科

反応物性化学講座第二研究室

Lab. Structural Chemistry

教育COEに採択された 工学教育プログラム

三大学工学部の連携

三大学工学部は九年間にわたって工業
高校卒業生を推薦枠で受け入れ、カリキ
ュラム編成および教育方法の調査研究を
共同で行ってきました。工業高校卒業生
は入学時の学力は劣りますが、ものづく
りの経験と意欲に富んでいます。一方、
普通高校卒業生は基礎学力に優れます
が、ものづくりの経験はありません。三
大学工学部はこれまで工業高校生に対す
る補習教育を行う一方で、学科の一年生
から三年生に対してもものづくり教育を行
ってきました。その中で、両者がお互い
に刺激し合う環境が、工学への強い意欲
を学生に与えることを把握しました。
これからは、今までのものづくり教育
の原点に戻って再構築することにより、
同分野の学生はもちろん、異分野の学生
も相互に刺激し合いながら工学力を向上
させていくことが求められています。そ

は、創造工学センターとして準備中)、
リメディアル教育(電子教材を利用する
双方向補習授業)とものづくり・アイ
デアコンテストの三本柱から構成されて
います。相互関係を示したのが右ペー
ジの図です。

工学力教育センター(創造工学 センター)

センターの役割は、ものづくり工房
の整備、リメディアル教育の強化法、工
学力を育成する教育プログラムの体系化
と全国への発信、企業との技術交流の窓
口になることです。

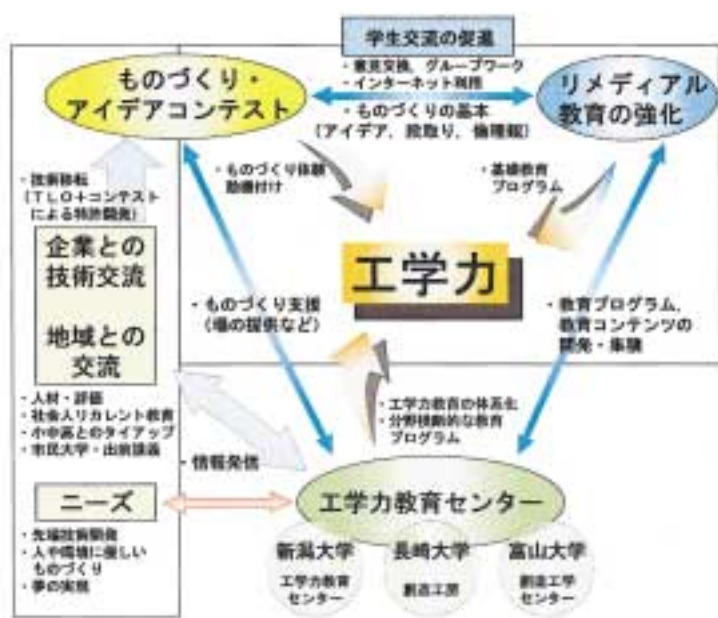
リメディアル教育

リメディアル教育の役割は自習や補習
のためのデジタルコンテンツ(講義資料、
レジュメ、講義ノート)の開発を行うこ
とです。それをアーカイブス(電子書棚)
に蓄積し、いつ、どこでも、必要となっ
たときに学生が学習できる教育環境を整
備します。

ものづくり・アイデアコンテスト

三大学共同の巡回展で、ものづくり作
品のアイデアコンテストを行います。
学生が自主的にものづくりに取り組む
きっかけを与え、ものづくりの楽しさ、

工学力教育プログラムの体系



TLO (Technology Licensing Organization) …技術移転機構

平成一五年度の特徴ある大学教育支援プログラム(教育COE)に、
富山大学工学部、新潟大学工学部および長崎大学工学部が共同で申
請した「ものづくりを支える工学力教育の拠点形成」創造性豊かな
技術者を志す学生の連携による教育プログラム」が採択されました。
創造性育成教育にはいろいろのやり方がありますが、三大学工学部
が共同提案した方法が特に優れていると認められたことになりました。

のための工学教育プログラムを三大学で
開発することになりました。

工学力とは何か

我々は、「ものづくりを支える総合的
な力」を「工学力」と定義します。それ
は「学ぶ力」(基礎学力) + 「コミュニ
ケーション能力」と「つくる力」(計
画する力) + 「デザインする力」 + 「も
のをつくる力」が統合した力と位置づ
けています。「工学力」は、工学の分野
が違っても共通に存在するプラットフォーム
(基盤)です。例えば、機械工学分
野の場合、このプラットフォームの上
に具体的な機械工学の教育プログラムが存
在します。

工学力を育成する教育プログラム

工学力を育成する教育プログラムは、
工学力教育センター(富山大学工学部で

教育COE (Center of Excellence) …特色ある教育拠点



ものづくり・アイデアコンテストin富山



厳しき、認められる喜びを体験させるこ
とができます。入学後のものづくり体験
が、卒業後に技術者として働く際に、大
いに役立つと確信しています。実際のも
のづくりを通して、あらためて工学技術
をさらに深く学び、他大学の学生との交
流は更なる自己啓発も促すことができま
す。

平成一五年一二月一九日(金)には本
学工学部を会場として「ものづくり・ア

アイデアコンテスト「富山」が、学長、
副学長、教職員五九名(富山大学五三三
名、新潟大学三名、長崎大学一名、他大学二
名)、学生・生徒四六一名(富山大学四
四六名、新潟大学一〇名、長崎大学二名、
工業高校生三名)、工業高校の先生一〇
名、民間企業六名、合計五三六名の出席
者の参加を得て、盛会に開催されました。
このページの写真は、その時の様子で



長谷川 淳

Hasegawa Kiyoshi (はせがわ きよし)

工学部 物質生命システム工学科 応用化学講座
1941年 2月生まれ
1963年 富山大学工学部卒業
1963年 丸善石油(株)入社
1965年 富山大学工学部助手、1978年 同助教授を経て
1991年 同教授 現在に至る
専門分野: 環境化学、機器分析化学、分析化学

TOM'S Essay

マーレイ州立大学での語学研修に参加してみませんか!?

金森 美幸 (かなもり みゆき)

教育学部 情報教育課程 教育情報システム専攻 2年



マーレイ州立大学

だんだん会話が聞き取れるようになり、また、まわりから積極的に発言するよう促されるうちに、自分の思いを話し伝えることが少しできるようになってきました。滞在中は学生寮で多くの学生と一緒に生活しましたが、その中でも様々な国の学生と楽しく自然に語り合うことができ、さらに英語力が身についたように思います。

教育学部と米田ケンタッキー州、マーレイ州立大学教育学部は、二〇〇一年に学部間学術交流協定を締結しました。その一環として行われた語学研修と学生交流を目的とする短期海外研修プログラムに参加しました。



右から2人目が筆者

マーレイ州立大学では、英語を第二言語とする学生向けの英語の授業 (ESLプログラム) を中心にいろいろな活動に参加しました。まわりすべてが英語に囲まれた生活は、最初は会話がなかなか聞き取れなくてとても苦労しましたが、集中的に語学を勉強するにはとてもいい環境でした。

この短期研修では様々な活動を通して、自分という人間を改めて見直すことができ、これからの生き方を考える良いきっかけになりました。機会があればまた参加したいと思っています。

平成16年度 公開講座のお知らせ

平成16年度前期公開講座は教養、語学、情報処理関連、健康スポーツ、体験の分野で合計25講座を開講します。さあ、**富山大学で学び、考え、交流しましょ。**

公開講座の問合せ先
生涯学習教育研究センター
電話：076-445-6956
ファクス：076-445-6960

【教養講座】

- 現代の教育をどう見るか 5月28日～6月25日 ● 7時間30分 ● 定員10人
- 現代経営学入門、新時代のビジネス行動を考える 6月2日～6月23日 ● 6時間 ● 定員20人
- 「生涯学習」の時代を生きる 6月4日～7月2日 ● 7時間30分 ● 定員10人
- 理学試食会のような環境科学研究が進んでいるのか? 6月5日～6月6日 ● 12時間 ● 定員30人
- 方言辞典をつくってみよう 6月12日～8月7日 ● 4時間30分 ● 定員15人
- 陶芸 (オブジェ制作&テラコッタ頭像制作) 6月26日～7月31日 ● 24時間 ● 定員20人
- アフリカ熱帯森林の生活と文化 7月3日～7月10日 ● 5時間 ● 定員10人
- 考古学から探る富山のルーツ 7月3日～8月1日 ● 7時間 ● 定員15人

【語学講座】

- フランス語初級 5月6日～7月8日 ● 20時間 ● 定員15人
- ドイツ語入門 5月8日～7月17日 ● 20時間 ● 定員15人
- 入門中国語Ⅰ 5月8日～7月10日 ● 12時間 ● 定員15人
- 初級英会話 5月9日～7月11日 ● 15時間 ● 定員20人
- フランス語中級 5月15日～7月17日 ● 20時間 ● 定員15人

【情報処理関連講座】

- ITコース① Windows基礎 5月8日～7月3日 ● 48時間 ● 定員20人

- IT講座① Windows入門 5月8日～5月22日 ● 18時間 ● 定員20人
- IT講座② Word 6月5日～6月6日 ● 12時間 ● 定員20人
- IT講座③ Excel 6月19日～7月3日 ● 18時間 ● 定員20人
- 情報化技術と適応問題 6月26日～8月7日 ● 12時間 ● 定員15人
- ITコース② マルチメディア入門 7月10日～8月8日 ● 36時間 ● 定員20人
- IT講座④ ポストカードを作ろう 7月10日～7月11日 ● 12時間 ● 定員20人
- IT講座⑤ プレゼンテーション資料を作ろう 7月24日～7月25日 ● 12時間 ● 定員20人
- IT講座⑥ ホームページを作ろう 8月7日～8月8日 ● 12時間 ● 定員20人

【健康・スポーツ講座】

- 山歩きの楽しみ 5月15日～5月16日 ● 9時間 ● 定員15人
- ゴルフ (初級者) コース 8月19日～8月29日 ● 15時間 ● 定員20人
- 親子で遊ぼう! 遊ぼう! 8月21日～8月22日 ● 8時間 ● 定員20組

【体験講座 (無料)】

- コンピュータで地図を作ろう 8月6日 ● 3時間30分 ● 定員40人
- ものづくり 8月9日～8月10日 ● 12時間 ● 定員45人

- 申し込み方法等
- (1) 受講申込みは、講座開始日の1ヶ月前から受付します。
- (2) 受講を希望される方は、受講申込書に必要事項を記入の上、次のいずれかの方法でお申し込みください。
- ① 生涯学習教育研究センター窓口まで申込書、受講料を直接持参。
- ② 生涯学習教育研究センターあて、申込書に受講料を添え、「現金書留」で申し込む。
- ③ 生涯学習教育研究センターあて、申込書を「ファクシミリ」で送付し、第1回目の受講時に受講料を持参。
- (3) 全日程を受講できなくとも、途中からでも受講できます。(ただし、受講料は、全日程の受講者と同額になります。)

特別寄稿 富山大学空手道部 創部50周年記念総会に寄せて

OB会世話人 澤田哲郎 (工学部機械二五回卒)

富山大学空手道部が創部五〇周年を迎え、去る平成一五年一二月九日(土)に富山市内のかわい本館にて盛大に記念式典が挙行された。来賓として、富山大学副学長塩澤和章先生にご出席をいただいた。



挨拶する塩澤副学長

はじめにOB会会長の森政雄先輩(葉二八年卒)から『五〇年の重みを感じる』ともによくぞここまで連綿と続いたものであるという感慨と若い人たちの挑戦することの大切さ』という挨拶をいただいた。



創部50周年記念写真 (平成15年12月9日)

塩澤副学長は空手道の知力、体力、そしてOBとのつながりを深め、人間性を大事にしているOB会行事に対して敬意を表され、また、富山大学の地域貢献や法人化、統合、総合研究棟等の諸施策で大学改革が急激なスピードで進んでいる

ことを説明された。大阪府、兵庫県、三重県、愛知県、石川県、地元富山県の各地からOBの諸先輩方にご出席いただき感謝申し上げたい。古岡正士先輩(文二九年卒)が『清水先生(松濤館流)との思い出』、堀江弘先輩(経四一年卒)が『先輩方がとても怖かった話』をそれぞれお話になられた。両先輩とも「社会人として健康で最後まで頑張って仕事を全うできたのは、空手道」を実践してきたからだ」と述べられた。事前にOB・現役に記念演武をお願いし、快く引き受けていただいた四組の方々には型演武を披露していただいた。

演武後、OB・現役を交えて懇親会が催され、激励や訓示やら叱咤やらそれぞれの思い出話や弾み、学生諸君にとっては貴重な時間になったのではないかと。大学の空手道は勝負の世界にあるとはいえず、「礼に始まり、礼に終わる」ことが肝要であり、学生諸君にはその心を大切に、自らを律し、気概を持ち文武に励まれんことを期待したい。

富山大学空手道部が今後とも永遠に続くことを祈念し、全国のOB諸先輩にこの声が届くことを願っている。

● 編集後記 ●

【梅と桜】

工学部が、現在の高岡高校の敷地から五福キヤンパスへ移転して、ちょうど二〇年が経過しようとしています。一九七〇年代の学生時代、富山から通学していたので、天気良くて、帰りの汽車の時間までに小一時間程ある時は、よく古城公園の中を友人と二人で散策して帰りました。二月末の今の時期、公園のちよと小竹藪のところから、咲いている紅梅と白梅を見ながら、好きな次の歌を口ずさんだりしていました。

東風ふかは にほひおこせよ 梅の花
あるじなして 春を忘るな 道真
我が園に 梅の花散る ひさかたの
天より雪の 流れ来るかも 旅人

この号が刷り上がり、皆さんのお手元に届くのは、多分入学式の頃、ちよと、保健管理センター(旧本部)の前の桜振りの良い桜が満開になっている頃でしょうか?

古来、桜を詠んだ歌は沢山あり、新入生諸君も多分、高校で習った中に、好きな歌が多数あったと思います。私が憶えているのは、次の有名な歌です。

花の色は うつりにけりな いたずらに
わが身世にふる なかめせし間に
春風の 花を散らすと 見る夢は
さめても胸の さわくなりけり
久方の ひかりのときき 春の日に
しずくなく 花の散るをむ
さてさて、どんな意味で、誰の歌か記憶に残っていますか?

子曰く、学びて思はされば、則ち同く、思ひて学ばざれば、則ち殆し。

(Y・S)



(編集委員会事務局)

Reader's Voice

読者からの声

- ◆多くの広報誌を拝見してきしたが、TOM'Sの編集は流石だ。(富山市K・H)
 - ◆対談で、高齢者は青信号が見えにくいと知った。是非緑色に改善して欲しいものだ。(富山市S・I)
 - ◆三大学再編統合をやり遂げますます発展して欲しい。(砺波市T・H)
 - ◆大学法人化、大変だろうががんばって。(氷見市S・I)
 - ◆サクラマスのは話はTVで見た記憶があるが、活字のものは熟読できてよかった。(富山市S・I)
 - ◆大学の様子よくわかった。(日進市H・H)
 - ◆北アルプスを後ろにした工学部キャンパスの表紙は良かった。今後はロボットの研究を取り上げて欲しい。(一宮市T・I)
 - ◇ロボット工学の紹介も計画していますので、今しばらくお待ちください。(編集委員会)
- 読者の皆様ありがとうございます。第13号についても是非ご意見・ご感想をお寄せください。また、こんな研究やつてない?とか、こいつテーマをとりあげて!というご要望もお待ちしております。

TOM's Magazine

富山大学広報誌 TOM's トムズマガジン 13巻

発行日 平成16年3月24日 発行 富山大学広報委員会 ●問合せ先 富山大学総務部企画室 〒930-8555 富山市五福3190 TEL:076-445-6029 FAX:076-445-6033
E-mail: kouhou@adm.toyama-u.ac.jp ●トムズマガジンはインターネットでもご覧いただけます。http://www.toyama-u.ac.jp/jp/ 印刷製本 株式会社「ハポ」

研究 頭と舌にのびのびおいしいイタリア史
大学人物ファイル No.13 堀井弘之氏
施設紹介 総合情報基盤センター
研究室への招待
BOOK REVIEW 「バグダッドのモモ」「ナラティブ・ベイスト・メディスンの実践」
サイゼの教育COEに採択された工学教育プログラム
鉄人 TOM'S Essay / 特別寄稿 富山大学空手道部 創部50周年記念総会に寄せたトピックス 平成一六年度公開講座のお知らせ

No.13 Spring 2004

黒田講堂と桜

◆大学の動き

目指せ！環日本海の小学校教育拠点校 — 附属小学校教育研究発表会の開催 —

附属小学校では、環日本海地域の小学校教育実践拠点校を目指し、本年度から同地域諸国の大学附属小学校との交流を始めました。第一弾として、12月4日（木）に大韓民国



附属小学校教育研究発表会

長）を交え、「対話」をキーワードとして、これからの交流の在り方を検討しました。なお、3月には第二弾として、附属小学校教諭2名を慶熙初等学校へ派遣し、図工などの授業を行いました。この授業交流は、今後3年間で中国やロシアにも広げ、拠点校としての機能を強化していく予定です。



附属小学校教育研究発表会

（財）吉田育英会が工学部に科学技術教育振興寄付金を贈呈

12月12日（金）、財団法人吉田育英会の小柴清史事務局長から、工学部に科学技術教育振興寄付金として金100万円を寄付したい旨申し出があり、龍山工学部長に対し寄付申出書が手渡されました。

この寄付は、平成15年文部科学省事業「特色ある大学教育支援プログラム（教育COE）」に採択された新潟大学、長崎大学及び本学の3大学工学部共同プログラム「ものづくりを支える工学力教育の拠点形成」創造性豊かな技術者を志す学生の連携による教育プログラム」の内容が、同育英会の事業方針に合致することから行われるものです。

財団法人吉田育英会（理事長 吉田忠裕 YKK株代表取締役社長、東京都墨田区

URL: <http://www.star.jp> は、YKKグループの創設者である故吉田忠雄氏の提唱により、資質優秀な学生に経済的援助を行い教育の機会均等の場を提供することで国家・社会



小柴事務局長（左）から申出書を受け取る龍山工学部長

に有能な人材を育成することを目的に1997年（昭和42年）に創立された、文部科学省を主務官庁とする公益法人です。創立以来、学校教育の振興と教育の機会均等を図るため、奨学金の貸与と給与、学校及び研究機関への寄付などの奨学、研究奨励事業に積極的に取り組んでいます。

ハワイ大学の科学者にちなんで命名された新鉱物の研究—清水理学部教授も参画—

隕石中から発見された新鉱物が、発見者の



ホルル・スタープレティン・ハワイ・ニュース 2003年5月3日

ハワイ大学地球物理学惑星科学研究所長クラウス・カイル教授にちなみ、カイル鉱と命名されました。この鉱物は、本学の清水正明教授、東京大学吉田英人氏及びカナダ王立オンタリオ博物館ジョセフ・マンダリノ研究員らによって研究され、国際鉱物学連合新鉱物及び命名委員会が新鉱物として承認され、昨年カナダ鉱物学会誌「カナディアン・ミネラルジスト」に論文が公表されました。

◆表彰

二宮英治技術専門職員（工学部）が（社）日本鉄鋼協会「鉄鋼技術功績賞」を受賞

12月6日（土）、二宮英治技術専門職員（工学部）が（社）日本鉄鋼協会から「鉄鋼技術功績賞」を受賞し、同8日（月）に本工学部長室で伝達式が行われました。



「精密製造技術の開発と教育支援」部門で、鉄鋼及びその周辺領域に関する業績において優れた技術技能を発揮し、これまでの工学部実習工場における研究用実験器具・装置の考案、製造及び学生実習の指導等に関する業績が高く評価されたものです。

◆大学施設利用のお知らせ

富山大学の施設は、富山大学の行事、授業及び課外活動に支障がない限り、公共的な行事及び企業や一般市民の方の営利を目的としない行事に使用することができます。ご希望の方は左記までお気軽にお問合せ下さい。

経理部主計課管財係
電話 076-4445160 42
ファクス 076-4445160 44
<http://www.toyama-u.ac.jp/>

●本誌は、富大構内などで無料配布しています。郵送のご希望もお受けいたします。 ●無断転載はご遠慮ください。
●本誌は、年4回、3ヶ月毎に発行します。ご意見、ご要望を是非お聞かせください。 ●本誌は、古紙100%の再生紙と大豆インクを使用しています。

TOM'S Magazine 編集委員会 清水 正明 理学部教授(委員長) 加藤 重広 人文学部助教授 小林 真 教育学部助教授 河野 三郎 経済学部助教授
森脇 喜紀 理学部助教授 山田 茂 工学部助教授 高井 正三 総合情報基盤センター教授 前田 邦樹 総務部企画室長